

## 第3回「災害に強い森づくり(第2期対策)」事業検証委員会 議事要旨

1 日 時：平成26年5月28日(水) 13:00~16:30

2 会 場：兵庫県女性交流館

3 出席者：服部委員、北原委員、坂田委員、山瀬委員、石丸委員(計5名)、  
田中環境創造局長、築山林務課長、渡邊治山課長、  
今里豊かな森づくり課長ほか県関係者

### 4 議 題

「中間報告書」(案)の審議

### 5 議 事

#### (1) 第2回検証委員会の議事内容の確認について

・議事録の内容確認、委員からの意見に対する県の回答

#### (2) 「中間報告書」(案)について

・第2期検証の実施状況、第2期対策の課題等

#### (3) 今後のスケジュールについて

・第4回委員会以降の開催、「中間報告書」の公表 等

### 6 主な意見について

#### (緊急防災林整備の斜面对策について)

・「土留工なし、獣害防護柵なし」の新たな対照調査地の設置について、既に表層侵食が進んでいるため比較検証が難しいと説明があったが、何年も比較しないと効果が分からないものなのか？新しく起きた現象でもある程度の比較は出来るのではなか？

・土留工が腐朽した場合、土留工を更新するのか？

あるいは腐朽の進行度合いから判断し、腐朽途中に土留工を更新する計画はあるのか？

・シカ不嗜好性植物の利用について、今から種を播いで実験すると時間がかかるため、下層植生の回復が重要ということであれば、種からでなく例えばミツマタの苗を植えるとかを検討すべきでは？

#### (緊急防災林整備の溪流対策について)

・災害緩衝林の整備フロー図を作成したことについて評価したい。また、本年度行う「水路実験」により、流木や土砂の捕捉効果が数値で評価できることを期待している。

#### (里山防災林整備について)

・低木について根系の引き抜き抵抗力を調査し、低木の崩壊防止力調べてみて

はどうか？10KN/m<sup>2</sup>程度あれば斜面強度上、問題ないと思うが。

- ・ 高木林を伐採し低林管理を行う場合、伐採した後の萌芽中の根系状態については未だ詳しく分かっていない。調査することは非常に興味深いと思う。

#### **(針葉樹林と広葉樹林の混交林整備について)**

- ・ ゾーンディフェンスでもパッチディフェンスでも、結局はどの程度メンテナンスを行うかで効果が変わってくると思う。設置費用等の初期投資にメンテナンス経費等を加えたトータルコストでコストパフォーマンスを検証すべき。
- ・ パッチディフェンスに関しては、たつの市の鶏籠山で実施し成果が出ている。同じ兵庫県のことでもあるし、一度現地を調査すれば良いと思う。新たな調査内容については、試験地を設置し継続して調査するのが良い。
- ・ シカ不嗜好性植物の導入を今後検討していくのであれば、育苗未経験の林業用種苗生産者に任せるよりも、すでに育苗に取り組んでいるCSR企業やボランティアを活用すれば別に難しいことではないのでは？
- ・ シカ不嗜好性植物の表層侵食防止機能を早急に判断しようとする、既に不嗜好性植物、たとえばミツマタが繁茂した森林のミツマタを一部伐採して、その伐採地を利用した比較検証方法もあると思うが？

#### **(野生動物育成林整備について)**

- ・ この中間報告書を公表する場合、書き方によっては一般の方には分かりにくいのではと気になる。公表する報告書をもっと簡単に分かり易くするため、グラフや表で示すより大雑把な説明でよいのではないか。
- ・ 整備後の維持管理等について住民に理解してもらうため、里山防災林の低林管理と低木林管理の比較表で示したような指標を設定し、その内容について分かり易い説明を加えた指針等を作成しては？

#### **(住民参画型森林整備について)**

- ・ 外部ボランティアを募っていたところがあることを考えても、日当やお礼というようなものがあればもう少し活用しやすいのではないか？

今回は里山整備をされたところはなかったが、先の針広混交林整備の話でも事業後の管理の継続が大切ということで、メンテナンスさえしていれば失敗ならなかったという事例もある。

整備事業とこの住民参画で里山整備するということを一体化して、住民の方の労働意欲を保てるような仕組みができれば、もう少し活用の範囲が広がるのではと思います。

#### **(検証結果のまとめについて)**

- ・ 記載方法が異なっているため、一般の方には分かり難いと思う。公表に向けて分かり易く整理すべき。
- ・ 報告書に結果で出ているものと、今から調査・検討するものとが混在しており分かりにくいため整理すべき。